

編集後記

編集長 東野 定律

昨年は新たな天皇陛下の御即位や令和への改元など、日本が新たな時代を迎えた1年であった。東京オリンピックの開催に向けて、明るい1年の幕開けになろうと誰もが期待を膨らませていた中で、発生したのが新型コロナウイルスによる新たな感染症の脅威である。

現在もこの新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、日本でも感染者は増加の一途を辿り、今後、更なる感染拡大も懸念されている。

政府が全国的な規模のイベントの中止、延期、自粛を国民に促し、3月中旬には小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に休業の要請がなされた。この影響で3月に実施されていた日本全国の卒業式の中止・縮小が相次いだ。本学は3月19日、2019年度学位記授与式を実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点からグランシップでの全体式典は中止となり、各会場でマスクの着用の呼びかけ、アルコール除菌剤の設置や換気に配慮するなどの対策がなされ、学部・大学院ごとの学位記授与となった。

経営情報学部でも、4111の大教室で行われた式典の様子が当日配信され、ゼミ単位の学位授与がなされた。竹下学部長の祝辞には、ピンチをチャンスに変えること、変化に対する順応性が大事になることが伝えられた。

現在も、新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンドを始め、日本経済が大変悪影響を受けているところであり、今後どのように回復の道をたどるのか予想がつかない状況である。今こそ、日本国民が、世界の人々が一丸となってこのピンチを乗り切ることが必要であり、いろいろな英知を結集させる時なのかもしれない。

本学部を卒業された105名もそれぞれの新たな人生に踏み出し、逆境に挑む新たなリーダーとして力強く歩いて欲しいと心から願っています。